



本文は、大東亜共榮園建設指導者たる我々日本人に對して一つの南方知識を提供する、南方民族研究に関する論文で、筆者は東京商大教授。昭和十六年八月號の「新文化」より轉載。

## 南方民族の精神的擇取

板

垣與一

南洋方面の旅行から歸へつて、なにか一般的な印象をまとめてよう。机に向ふ瞬間、いつも腦裡に浮ぶことは、あの南方民族のどこか愛ひを含んだ弱々しい姿である。實際、彼は天性懶惰だといふけれども、見方によつては、懶惰はならぬやうに、民族の精神ゆくならば、或ひはわれ／＼の心膽を冷やすやうな逞ましである。もちろん、一般的の旅行者がゆかない山間の僻地にゆくならば、或ひはわれ／＼の心膽を冷やすやうな逞ましう。しかし、關印にしても、普通の腹立たしさへ感するのである。もちろん、一般的の旅行者に遭遇することなどらぬ。しかし、關印にしても泰然として接する土民のあくまで平和な温順な姿には、彼等は勤勉なのだ。しかりと見當らず、唯々諾々として命令に服する忠實なる從僕以外の何者でもないからである。旅行者が、未だ曾て身邊の危険を豫感することなく、どこでも自由に飛びあるけるといふことは、旅行前まではどうも確信のものでなかつた。一つは、旅行前に從順にされが植民地社會の本質なのだ。アダム・スミスも言つたやうに、たゞ勤勉であるといふ結果が、支配者のふところにそつくりそのまま持つてゆられる。しかし植民地社會といふことは、そのまゝその社會の進歩を意味するのではなく、蓄積するといふことが大切な事であつた。其やうに從順にして無氣力なのだ。和蘭人は、どうしてジヤワ人を指して「地族」であるといつたが、まさしくその通りである。しかしあつた。其やうに從順にして無氣力なのだ。和蘭人は、初めから興へらるい種の資本の社會とは、別に民族のかゝる精神的虚脱狀態の統一のないのが、植民地社會である。よく人はいふ、南方のものである。社會的、經濟的にもたらされる肉體的の勤勉さが無氣力で弱氣がな

神の弛緩状態を生みだしたにいといふのは、そのまゝ懶惰

相違ない。南方民族に共通な相違ない。南方民族は、そこからないところの深い社會的、政治的な、そして歴史的な原因

とめよう。

しかし私の印象の中に、ど

うしてもそれでは割り切れない別のものが残るのである。

である。もちろん、一般的の旅

行者がゆかない山間の僻地に

ゆくならば、或ひはわれ／＼

の心膽を冷やすやうな逞まし

う。しかし、關印にしても泰

然として接する土民のあく

まで平和な温順な姿には、

彼等は勤勉なのだ。しかり

と見當らず、唯々諾々として命

令に服する忠實なる從僕以外

の何者でもないからである。

旅行者が、未だ曾て身邊の危

険を豫感することなく、どこ

でも自由に飛びあるけるとい

ふことは、旅行前まではどう

も確信のものでなかつた。

一つは、旅行前に從順に

されが植民地社會の本質なのだ。

アダム・スミスも言つたや

うに、たゞ勤勉であるといふ

結果が、支配者のふところ

にそつくりそのまま持つてゆ

られる。しかし植民地社會とい

ふことは、そのまゝその社會の

進歩を意味するのではなく、蓄

積するといふことが大切な

事であつた。其やうに從順に

して無氣力なのだ。和蘭人は、

どうしてジヤワ人を指して「地

族」であるといつたが、まさ

しくその通りである。しかし

あつた。其やうに從順に

して無氣力なのだ。和蘭人は、

どうしてジヤワ人を指して「地

族」